



# 食虫植物 の育て方



# ハエトリグサ



## の育て方



**栽培環境：**一年中、よく日の当たる場所に置いて育てます。冬は、冷たい風をよける程度で暖房する必要はありません。夏は、温度が上がりすぎないように、少し日除けすると良いでしょう。コンクリートの上などに直接置かないようにします。

**水やり：**毎朝たっぷりあげましょう。それでも乾くときは夕方にもあげましょう。葉に水をかけないように注意しましょう。受け皿には、汚い水をためないようにします。冬は、冬芽のようになるので乾かし気味でも構いません。

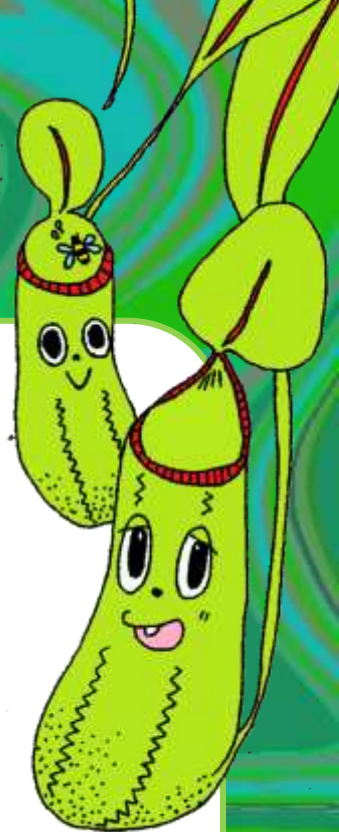
**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：**2月から3月に行います。

**培養土：**①水苔  
②鹿沼土、パーライト、パーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**植え替え時に、子株ができていたら分けます。

# ウツボカズラの育て方



**栽培環境：** 5月中旬から9月にかけては、屋外のこもれ日が当たるような場所で育てます。寒くなってきたら屋内の日当たりの良い場所で、最低でも温度は15°Cくらいを保つようにします。

**水やり：** 屋外で育てる間は毎朝、水が鉢底から出るまであげます。室内に取り込んでからは、培養土の表面が乾いてからにし、霧吹きなどで空中湿度を保つようにします。袋の中の水は、なくならないように注意します。

**肥料：** 必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：** 5月から6月に行います。根が縮れたようになっているので、古い水苔などを取り除く時に傷めないようにします。

**培養土：** ①水苔 ②鹿沼土、パーライト、バーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：** 挿し木で、茎の堅い部分を使い、水苔や鹿沼土に挿します。葉が大きい場合は、1/2から1/3に切ります。広口の褐色のビンに水をためて挿し、直射日光の当たる場所に置いても発根します。



おどり・ゆめ・みらい

東京都

夢の島熱帯植物館

Yumenoshima Tropical Greenhouse Dome



# サラセニア の育て方



**栽培環境：**一年中、よく日の当たる場所に置きます。冬は、冷たい風をよける程度で暖房は必要ありません。コンクリートの上などに直接置かないようにします。

**水やり：**毎朝たっぷりあげましょう。鉢底から水が出たのを確認し、受け皿の水も新しいものに取りかえます。

**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

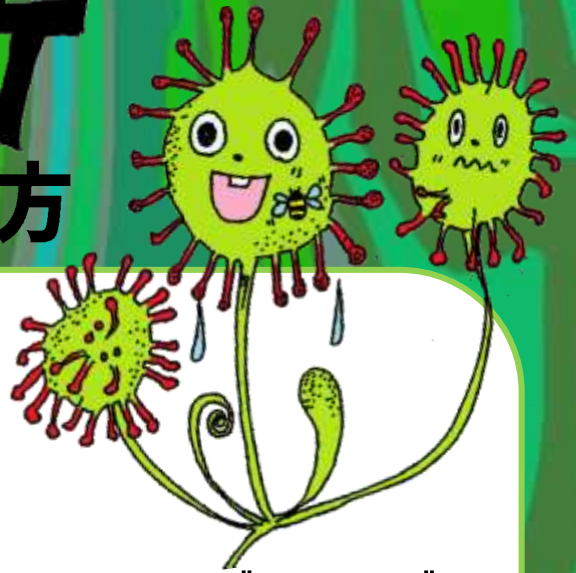
**植え替え：**11月から2月に行います。

**培養土：**①水苔  
②鹿沼土、パーライト、バーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**植え替え時に、株分けを行います。

# モウセンゴケ

## の育て方



**栽培環境：** 受け皿に浅く水をため、その中に鉢を入れます。受け皿の水がなくならないように注意します。春から秋までは日に良く当てます。

冬は、温帯性のモウセンゴケ（ヨツマタモウセンゴケ、イトバモウセンゴケなど）は、冬芽をつくるので、屋外で冷たい風が当たらないようにし、  
熱帯のモウセンゴケ（アデラエモウセンゴケ、アフリカナガバモウセンゴケなど）は、生長を続けるので明るい室内に入れます。

**水やり：** 毎朝たっぷりあげましょう。葉に水はかけないようにします。鉢底から水が出たのを確認し、受け皿の水も新しいものに取りかえます。

**肥料：** 必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：** 3月から4月に行います。  
根が太く長いので、深めの鉢が良いでしょう。

**培養土：** ①水苔 ②鹿沼土、パーライト、バーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：** 植え替え時に、子株ができていたら分けます。  
水苔に葉を挿したり、根をふせてもふやすことができます。



みどり・ゆめ・みらい

東京都

夢の島熱帯植物館

Yumenoshima Tropical Greenhouse Dome



# 食虫植物の育て方

## ハエトリグサ

**栽培環境：**一年中、よく日の当たる場所に置いて育てます。冬は、冷たい風をよける程度で暖房する必要はありません。夏は、温度が上がりにすぎないよう、少し日除けすると良いでしょう。コンクリートの上などに直接置かないようにします。

**水やり：**毎朝たっぷりあげましょう。それでも乾くときは夕方にもあげましょう。葉に水をかけないように注意しましょう。受け皿には、汚い水をためない ようにします。冬は、冬芽のようになるので乾かし気味でも構いません。

**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：**2月から3月に行います。

**培養土：**①水苔  
②鹿沼土、パーライト、パーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**植え替え時に、子株ができていたら分けます。

## ウラボシ

**栽培環境：**5月中旬から9月にかけては、屋外のこもり日が当たるような場所で育てます。寒くなってきたら屋内の日当たりの良い場所で、最低でも温度は15°Cくらいを保つようにします。

**水やり：**屋外で育てる間は毎朝、水が鉢底から出るまであげます。室内に取り込んでからは、培養土の表面が乾いてからにし、霧吹きなどで空中湿度を保つようにします。袋の中の水は、なくならないように注意します。

**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：**5月から6月に行います。根が縮れたようになっているので、古い水苔などを取り除く時に傷めないようにします。

**培養土：**①水苔 ②鹿沼土、パーライト、パーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**挿し木で、茎の堅い部分を使い、水苔や鹿沼土に挿します。葉が大きい場合は、1/2から1/3に切ります。広口の褐色のビンに水をためて挿し、直射日光の当たる場所に置いて発根します。

## サラセニア

**栽培環境：**一年中、よく日の当たる場所に置きます。冬は、冷たい風をよける程度で暖房は必要ありません。コンクリートの上などに直接置かないようにします。

**水やり：**毎朝たっぷりあげましょう。鉢底から水が出たのを確認し、受け皿の水も新しいものに取りがえます。

**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：**11月から2月に行います。

**培養土：**①水苔  
②鹿沼土、パーライト、パーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**植え替え時に、株分けを行います。

## モウセンゴケ

**栽培環境：**受け皿に浅く水をため、その中に鉢を入れます。受け皿の水がなくならないように注意します。春から秋までは日に良く当てます。冬は、温帯性のモウセンゴケ(ヨツマタモウセンゴケ、イトバモウセンゴケなど)は冬芽をつくるので、屋外で冷たい風が当たらないようにし、熱帯のモウセンゴケ(アデラエモウセンゴケ、アフリカナガバモウセンゴケなど)は、生長を続けるので明るい室内に入れます。

**水やり：**毎朝たっぷりあげましょう。葉に水はかけないようにします。鉢底から水が出たのを確認し、受け皿の水も新しいものに取りがえます。

**肥料：**必要ありません。虫も自然に捕まえるので、与える必要はありません。

**植え替え：**3月から4月に行います。根が太く長いので、深めの鉢が良いでしょう。

**培養土：**①水苔 ②鹿沼土、パーライト、パーミキュライト、ピートモス、桐生砂、川砂などを混ぜたもの

**繁殖：**植え替え時に、子株ができていたら分けます。水苔に葉を挿したり、根をふせてもふやすことができます。